

平成 30 年 4 月 27 日

資料へのお問合せ先

奈良市教育委員会 教育総務部

文化財課 史料保存館

電話 0742-27-0169

史料保存館 企画展示

奈良奉行所

史料保存館では、保管する史料を活用した企画展示を実施しています。今回は江戸時代の奈良町を治めていた奈良奉行所を紹介する展示を企画しましたので、ご案内いたします。

江戸時代、奈良の町は幕府直轄地でした。その幕府による支配を現地で担ったのが、奈良奉行所でした。近年、幕末の奈良奉行、川路聖謨の奈良での活躍を描いた歴史小説が出版されて、関連する講演会にも多くの人に参加するなど、奈良奉行所やその町政は、改めて注目されつつあるように思われます。そこで史料保存館では、奈良奉行所の景観を示す絵図や、町の統治の一端を示す史料などを展示して、あまり知られていない奈良奉行所の様子を紹介します。

1 開催概要

会 期 平成 30 年 5 月 2 日（水）～7 月 22 日（日）

開館時間 午前 9 時半～午後 5 時
（入館は午後 4 時半まで）

休 館 日 月曜日・祝日の翌平日（祝日は開館）
（7 月 17 日（火））

入 館 料 無料

会 場 史料保存館 展示室（奈良市脇戸町1-1）

展示解説 史料保存館で、館員による展示解説を 2 回行います。約 30 分の予定。申し込みは不要です。
[日時]

① 5 月 12 日（土）午後 1 時半～

② 7 月 3 日（火）午後 1 時半～



史料保存館・奈良町にぎわいの家の場所

2 展示の見どころ

今回の展示では、これまでほとんど公開されることがなかった「御役所絵図」を展示します。これは、明和4年(1767)に、奉行所与力(よりき)(注1)によって作成されたと考えられる図で、堀に囲まれた奉行所全体の様子や、敷地内の建物配置や間取りなどが詳しく記されています。当時、大坂や京都など他の奉行所に比べて、大変規模が大きかった奈良奉行所の内部構造が具体的にわかります。あわせて展示する奉行所模型とともにご覧いただくと、奉行所の景観をさらに具体的にイメージすることができますと思います。

また、江戸時代の奈良町の様子や出来事、奈良奉行所の機能を知ることのできる史料として、『御番所日記』(ごばんしょにつき)『町代日記』(ちょうだいにつき)を展示します(奈良市指定文化財)。これは奉行所の与力と町代(ちょうだい)(注2)による職務日誌で、奈良町その他から奉行所に提出される訴訟や届の記録、触(ふれ)の覚書など、多彩な記事が収録されていて、奉行所支配下の奈良町の状況をうかがうことができます。

このほか、「奈良町絵図」や『井上町町中年代記』(奈良市指定文化財)など11点の史料で展示を構成します。

注1 与力(よりき): 奉行所の役職のひとつで、町政の実務や奉行所の警固を担当した正規の幕府の家臣(幕臣)にあたる武士。

注2 町代(ちょうだい): 町政事務を担当した町の有力町人。上町代2名と補佐役の下町代3名が奈良奉行所内にある町代部屋に交代で詰めて、与力の指示のもと、町方と奉行所を取り次ぐ役割を担っていた。

3 展示関連イベント

① にぎわいの家出張展示「タイムトラベル奈良町～奈良奉行所～」

「奈良奉行所」展開催に合わせ、奈良町にぎわいの家において、奈良奉行所に関連した史料の一部を出張展示し、あわせて史料保存館員による史料解説を行います。

日 時 6月16日(土) 午後2時～4時
(館員による展示解説は午後2時から30分程度)
会 場 奈良町にぎわいの家(奈良市中新屋町5)
費 用 無料
申 込 不要

② ガイド付きツアー「もっと知りたい“奈良奉行所”」

「奈良奉行所」展にちなみ、奈良町に残る奈良奉行の足跡を見学するガイド付きツアー「もっと知りたい“奈良奉行所”」をNPO法人 なら・観光ボランティアガイドの会 朱雀と共催します。

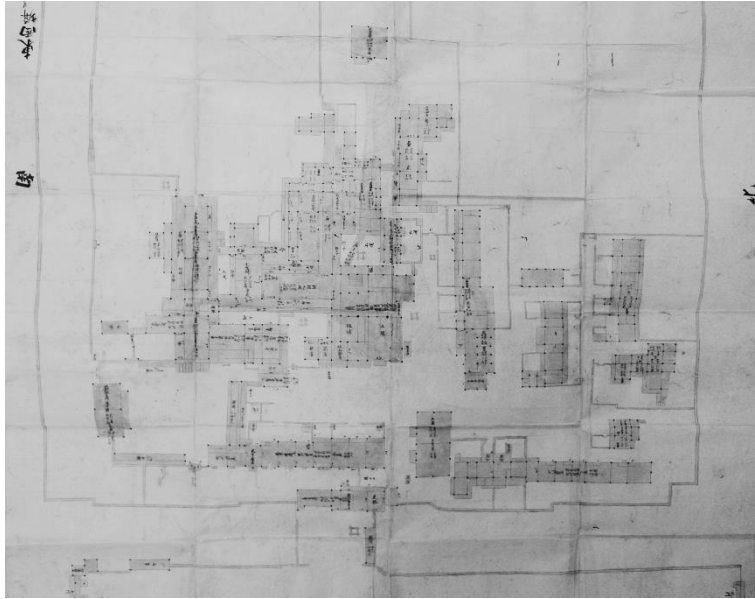
日 時 7月21日(土) 午前9時半～正午ごろ(受付は午前9時～)
雨天決行(警報発令の場合は中止)
コース ならまちセンター前広場集合－史料保存館※館員による展示解説－阿弥陀寺－植桜楓之碑－興福寺南大門跡－奈良奉行所跡－奈良奉行所付属学問所明教館跡－多門町－きたまち観光案内所－東大寺真言院(解散)
費 用 200円
申 込 電話で直接、または、はがき・FAX・メールに事業名、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号を書いて
なら・観光ボランティアガイドの会 朱雀(〒630-8228 奈良市上三条町23-4
電話 0742-27-9889 FAX 0742-24-9311 Eメール suzaku97@m3.kcn.ne.jp)へ
申込み締め切り 7月14日(土)

4 広報

しみんだより(4月号)、市ホームページ、チラシ配布、twitter、関西文化.com、歴史街道推進協議会への情報提供、周辺施設への広報

主な展示予史料

(1) 『御役所絵図』(おやくしよえず) 明和4年(1767) 個人蔵



明和4年(1767)に、奈良奉行所与力であった橋本喜久右衛門によって作成されたと考えられる図で、奉行所内の建物の配置や間取りなども詳しく書かれています。また、3色に彩色されており、屋根材の別(瓦葺、檜皮葺、板葺)を示しています。奈良奉行所空間の全体を知ることのできる貴重な史料です。

(2) 『奈良町絵図』(ならまちえず) 江戸時代中期



「奈良町絵図」は、奈良の町におけるいろいろな情報が書き込まれている手書きの絵図で、奉行所の位置やその大きさを把握することもできます。奉行所の与力などが手元に置いて使ったのではないかと、考えられる絵図です。

(3) 『御番所日記』と『町代日記』(ごばんしょにつき、ちょうだいにつき) 個人蔵
奈良市指定文化財



与力と町代による職務日誌で、寛文7年(1667)、寛文8年(1668)、寛文9年(1669)、寛文10年(1670)、宝永4年(1707)、文化4年(1807)の記録です。奉行所内の出来事や人の出入り、町人からの訴訟の届、吟味筋の届、家屋敷の売買届、勘当届など江戸時代に奈良の町で起こっていたいろいろな出来事が記録されています。

(4) 『町中年代記』(ちょうちゅうねんだいき) 井上町有 奈良市指定文化財



井上町の町記録です。壱番から五番に延宝6年(1678)から安政3年(1856)までの記述があり、町内のことにとどまらず、奈良町の様子がわかる多彩な史料です。

三番には、安永5年(1776)4月に、奈良奉行 小菅武弟(こすげたけくに)が町廻りをしたとき、それを迎える町民の準備の様子が記されています。五番には、神鹿保護について奉行所からの口達(こうたつ)が記録されています。

※この報道資料に掲載している写真は、データ提供することができます。
問い合わせは広報戦略課へ。